

令和5年 3月13日

足立区立弘道第一小学校
校長 鈴木 秀明 様

足立区立弘道第一小学校
開かれた学校づくり協議会

令和4年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

重点的な取組事項－1 児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着 達成度○（達成）

4月に実施した区学力調査結果では、目標値を上回る児童の割合が国語で81.1%、算数で83.8%であった。平成30年度では70%未満であった数値が、ここ数年は80%台で安定しており、基礎学力定着のための取組が一定の成果を上げていると判断できる。しかしながら調査問題の内容が前学年の既習事項であることから、引き続き学習のつまずきを解消する取組を行った結果、数値が90%に達するまで学力改善が進んだ。今後は未定着部分を解消するための「すっきりタイム」や「弘一タイム」などの補習的な取組ばかりでなく、つまずきそのものを生じさせないための授業づくりや指導方法の工夫・改善をお願いしたい。また各自に用意されたタブレットを活用して、さらに個別最適な学習も進めていただきたい。一方でアンケート結果より、子供の家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者が30%近くおり、学校ばかりでなく、家庭からの学力向上に対する協力や意識の向上が求められる。

重点的な取組事項－2 「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止 達成度◎（十分に達成）

学級集団における児童一人一人の状態を把握できるQU調査(学校生活における児童個々の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定する調査)によると、「学級生活満足群」に所属する児童の割合が60%であった。これは全国平均の43%を大きく上回っており、日頃の道徳教育の充実や教師の人権感覚を高める取組、いじめ対策委員会による取組、思いやりの心を育成するために学校全体で取り組んでいる「あいさつ運動」や「言葉遣い重点週間」などの成果であると考えられる。実際に子供たちへの言葉遣いに対するアンケートでは、「相手や場面に合わせた言葉を遣うことができましたか。」の問いに対する肯定的回答はほぼ100%に近いものであった。課題としてコロナ以前には登校しぶりが挙げられていたが、コロナ禍では不登校・不登校傾向児童への対応が喫緊の問題となってきた。原因は学校生活ばかりにあるとは言い難いが、家庭と関係諸機関との連携に学校が果たす役割は大きい。アフターコロナの生活では、以前のような人と人との関わりによる心の成長が大いに期待できることから、引き続き児童の心に寄り添った心の教育の充実と指導に努めていただきたい。

重点的な取組事項－3 児童一人一人の体力の向上

達成度△（達成せず）

今年度の重点的な取組事項の中では最も達成度が芳しくなかった。5月に実施した体力状況調査では、8種目のテストの中5種目で全国平均を上回ることを目標としていたが、全国平均を上回っていたのは最大でも4種目であった。特に、「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」の3種目については、全ての学年の男女で全国平均に届かなかった。低学年を中心に体力の低下が顕著であり、3年間に及ぶコロナ禍での自粛生活の影響があるとも考えられる。学校は校庭や体育館にボール投げの的を設置するなど投力向上に取り組んだが、継続的な子供の利用状況は見られなかったとのことである。体力向上のために工夫した新たな取組を充実させていただき、来年度の体力状況調査で一定の成果が見られることを期待している。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

年度当初に示された3つの重点的な取組事項に対する前年度の課題は、それぞれに対する改善に向けた取組により、今年度は一定の成果を上げることができたと考える。学校評価アンケートに寄せられた保護者意見からも、昨年度を上回る肯定的な回答が寄せられており、学習面や生活面において子供たちの落ち着いた学校生活の様子がうかがえる。今後も引き続き、穏やかであたたかな弘道第一小学校の校風を継続できるよう願う。一方で3年間に亘るコロナ禍の影響もあり、子供たちの体力低下や交流活動の制限に伴う人と関わる力の育成については、今後の新たな課題として掲げられている。これらの課題については学校だけということではなく、保護者・地域も協働しながら改善に向けて取り組んでいきたい。

平成25年9月から始まった廃品回収の収益金による漢字検定全員受検は定着し、今年度も2～6年生全員に家庭の負担無く実施でき、開かれた学校づくり協議会がPTAと協力し、地域の皆様と取り組んできた成果である。開かれた学校づくり協議会としては、保護者、地域の皆様と連携を深めて廃品回収に取り組み、学校との協力のもと、この検定受検の取組を今後も是非、継続、発展させていきたい。

3 その他

コロナ禍であっても感染症拡大予防対策に努めながら、「PTAパラスポーツ大会」「近隣町会・自治会との夏休みラジオ体操」「新聞ドームづくり」「弘一落語会」「カレーランチ会」など、子供たちのために様々なイベントを実現することができた。また時事的な問題として、「性の多様性」に関する家庭教育講演会を開催し、学校の教職員・保護者・地域の三者が一堂に会して学ぶ貴重な機会を設けることもできた。今年度3年振りに行われた連合体育大会での子供たちの活躍は目覚ましく、ミニバスケットボール大会で女子チームが優勝、サッカーでは男子がベスト8に進出し、女子は準優勝を飾るなど、先生方に感謝申し上げるとともに、今後も学校内外での子供たちの活躍の場を提供していただければようお願いしたい。

これからも開かれた学校づくり協議会は、先生方の日々の教育活動と上手く連携しながら様々な取組を実現させ、弘道第一小学校の子供たちのためにその活動を充実、発展させていきたい。